

「社会との調和」を目指す

— 地域と環境の視点で取り組みを推進 —

シャープ(株) CSR推進本部
CSR推進統轄 嶋本敏男



近郊海岸でマングローブ林回復のために植樹するタイ拠点社員

「慈善基金」で幅広い活動

当社海外事業における主要地域の一つである中国では、従来、それぞれの拠点が社会貢献活動を実施していたが、中国の全拠点が一体となり、より大きな運動にしようとして現地の公的基金である「上海市慈善基金会」と提携し、2006年に「シャープ慈善基金」を設立した。毎年、中国の生産・販売8拠点から活動基金を拠出し、奨学金の支給、公立病院・教育機関などへのシャープ製品の寄贈、植樹活動などの社会貢献活動を実施している。

また、中国の北西部での砂漠化の進行にともない、天津市やその周辺地域でも黄砂による影響が増大していることから、2007年には「シャープ

「良き企業市民」活動を推進

シャープグループは企業行動憲章において『社会との調和』を掲げ、『良き企業市民』として活動し、また、研究、教育、環境保全、地域社会奉仕などによる社会貢献活動への支援をおこない、地域社会との調和・共存を図る』ことを定めており、この考え方に則り社会貢献活動の取り組みを国内外で推進している。

当社は、CSR・環境への社会的関心の高まりを踏まえ、2003年6月に、社員による環境ボランティア活動を中心とするさまざまな社会貢献活動を企画・運営する組織として、シャープグリーンクラブ(SGC)を日本国内で立ち上げた。海外各拠点では地域事情に応じた社会貢献活動を推進しているが、このSGCの取り組みを海外にも紹介。海外各拠点は、SGCの活動も参考にして、たとえばタイのマングローブ植樹など、植林・地域清掃をはじめとする環境社会貢献活動や寄付・協賛活動などをおこなっている。



「友誼林」植樹地。地元の関係の皆さんと中国拠点社員

ブ慈善基金」を活用し、中国林業環境促進会、天津市武清区林業局と共同で防風林を造成する「シャープ中日友誼林」プロジェクトを開始した。同年3月から4月には、天津市の造林区域約7haに7400本のポプラの木を植樹。2010年までに約27haの区域を防風林とする計画である。この友誼林を通じて造林区域の生態緑化レベルを高め、風と砂埃による被害を軽減して地域住民の居住環境の改善に寄与するとともに、日中両国民の友好のシンボルとしても育てていきたいと思っている。

「シャープ希望小学校」を建設

以上の「シャープ慈善基金」の取り組みに加え、中国では2007年に新たな社会貢献活動をおこなった。当社の液晶テレビを中国の皆さんに体験していただくために「“AQUOS” エクスペリエンス(体験)ツアー」というイベントを開催し、そこで使用したテレビを活用しチャリティオークションを実施した。その収益金の全額を中国の貧困地域での学校建設に取り組む公益事業団体「希望工程」に寄付。この寄付金で、重慶市と安徽省にそれぞれ1校ずつ「シャープ希望小学校」が建設されることになっている。



中国の公益事業団体「希望工程」への寄付贈呈式

子どもたちに環境意識を

シャープは、メーカーとして「持続可能なものづくり」をめざしている。また、環境教育を通して、より多くの子どもたちが環境に配慮したライ



米国における環境教育授業の様子

フスタイルを身につけるためのお手伝いをするだけでも、持続可能な社会の構築に貢献したいと考え、この取り組みを当社の主要な社会貢献活動の一つと位置づけている。

日本国内では、2006年からNPO法人「気象キャスターネットワーク」と連携し、現在までに800校以上の小学校で、「地球温暖化とリサイクル」または「地球温暖化と新エネルギー(太陽光発電)」をテーマに、実験などを交えた環境教育を実施。授業を実施した学校の先生や生徒から多くの感謝の言葉をいただくなど、各方面から高い評価を得ている。

海外でも、今までに一部の拠点で、社員を講師として地元の学校に派遣し環境授業をおこなっていたが、2008年度からは国内の小学校環境教育のノウハウを活用し、中国、米国、マレーシアを皮切りに環境教育の一層の拡充に取り組んでいる。今後「科学的に、体験的に、実行できる心を育む」をキーワードとして、欧州地域などにもこの環境教育活動を展開していく。グローバルベースで、次世代を担う子どもたちの環境マインドの育成に寄与できることを願っている。 ■

◆シャープの社会貢献活動

<http://www.sharp.co.jp/corporate/eco/index.html>